

CSR情報通信 第12号

2015年 3月
AGCコーテック株式会社
技術本部 CSR室

今回は、「ISO 9001:2015」のリスクに基づく考え方について記載いたします。

1. リスク (risk) とは？

一般的には「危険、予想通りにいかない可能性」といったように、好ましくない意味のみで考えられることが多いですが、ISO9001では**不確かさの影響**と定義しています。

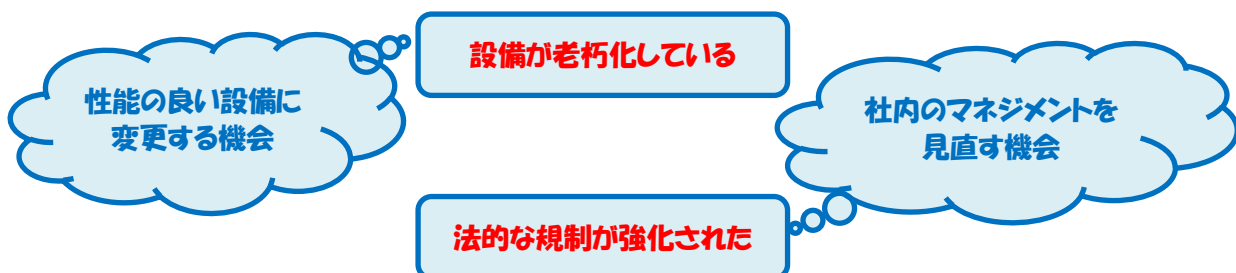
不確かさの影響とは、起こるか起こらないかが確定していない事象がマネジメントシステムに与える影響であり、以下の通り、大きく二つに分けられます。

- ・ 組織の**外部**に起因する事象・・・自然災害、為替変動、法的規制の緩和など
- ・ 組織の**内部**に起因する事象・・・人の行動、設備の故障など

ISO 9001で考慮が求められているのは、プロセスに関するリスクですので、どちらかと言えば後者の「組織の内部に起因する事象」がメインとなります。

ISO 9001ではリスクの定義として、品質マネジメントシステムに与える影響が好ましくない方向のこともあれば、好ましい方向の場合もあり得ます。**良いにしろ、悪いにしろそれが自社にどのような影響を与えるのかを考えることが重要**となります。

リスクに基づく考え方は、**機会 (opportunities)** の特定にも役立つものです。**機会**は、意図した結果を達成するために好ましい状況です。



2. ISO 9001:2015におけるリスクに基づく考え方とは？

- ・ 最善の結果を出すため、自然に、そしてしばしば無意識のうちに
行っていることです。
- ・ ISO 9001:2008の中でも、**リスク**の概念は元々含まれていましたが、
ISO 9001:2015では、より明示的に、**マネジメントシステム全体に
組み込むもの**としています。
- ・ **マネジメントシステム全体を通して、リスクが考慮されることを
確実にする**ものです。
- ・ **予防処置が戦略上及び運用上の計画の一部**となっています。

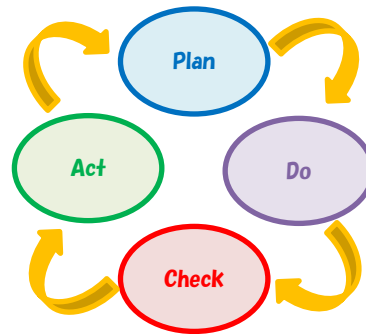
3. リスクに基づく考え方が用いられる理由

成功する組織とは、リスクに基づく考え方を適用しているとされています。リスクに基づく考え方により、以下のような便益がもたらされます。

- ・ 管理体制を改善する。
- ・ 改善を先取りする。
- ・ 遵守を助ける。
- ・ 製品及びサービスの品質の一貫性を保証する。
- ・ お客様の信頼及び満足を向上する。

4. 何をしたらよいのか？

- ① リスク及び機会への取り組みを計画する。(Plan)
- ↓
- ② 計画を実施する。取り組みを行う。(Do)
- ↓
- ③ 取り組みの有効性を確認する。(Check)
- ↓
- ④ 改善する。(Act)



5. まとめ

- ・ リスクに基づく考え方は新しいものではありません。
- ・ 目標を達成する可能性を高めます。
- ・ 好ましくない結果を未然に防ぐことができます。
- ・ 機会を最大限活用できます。

6. 参考文献

- 1) 「JIS Q 9000 品質マネジメントシステム—基本及び用語」
- 2) 「JIS Q 9001 品質マネジメントシステム—要求事項」
- 3) 中條武志・棟近雅彦・山田秀, 「ISO 9001:2015 要求事項の解説」日本規格協会
- 4) 中條武志・須田晋介, 「ISO 9001:2015 新旧規格の対照と解説」日本規格協会
- 5) 「ISO 9001:2015 支援文書」
<http://www.jsa.or.jp/stdz/iso/iso9000.html>
 (2016/3/23アクセス)

以上